

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議（第1回）

2 開催日時

令和元年8月30日（金）午後2時00分から午後4時00分まで

3 開催場所

犬山市役所2階 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 西村幸夫、石田芳弘、佐分晴夫、服部敦、梅川智也、岩瀬正明、日比野良太郎、小川征一、柴田浩行、久世高裕
- (2) 執行機関 山田市長、永井経済環境部長、鈴木経営部長、新原観光交流課長、小池観光交流課課長補佐、大谷観光交流課統括主査、櫻井観光交流課主事補、井出企画広報課長、安藤企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査補、中柴企画広報課主事

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 委員委嘱
- (3) 委員紹介
- (4) 会長選任
- (5) 諮問
- (6) 議題

【報告事項】

- ① 観光戦略策定の背景および現状について
- ② 第1回犬山市観光まちづくり会議について

【協議事項】

- ③ 意見交換
- ④ 犬山市観光戦略会議専門部会について
- ⑤ 今後のスケジュールについて
- (7) その他

6 傍聴人の数

2人

7 内容

事務局

みなさんこんにちは。本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただ今より、第1回犬山市観光戦略会議を始めさせていただきます。会議の議事は規則上会長が議長となることとなっておりますが、本日は第1回ということで会長が選任されるまでは、企画広報課長の井出が進行を務めさせていただきます。この会議につきましては資料1, 2で配布させていただきました、犬山市附属機関設置条例、犬山市観光戦略会議規則に基づき、市長の諮問に応じ、犬山市観光戦略の策定及び推進に関する事項について審議するために設置されたものです。本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進めさせていただきますと考えておりますが、概ね2時間で終了させていただきますと思います。

なお、この会議は公開で開催されます。傍聴人の方は会議中お静かにお願いします。また、傍聴人の方から撮影と録音について問い合わせがありました。定めのない会議の運営に関することにつきましては、会長が定めることとなっておりますので、会長選任後改めて決めていただくこととなります。それまでの間は禁止とさせていただきます。

はじめに、犬山市長、山田拓郎よりご挨拶申し上げます。

山田市長

みなさんこんにちは。大変お忙しい中、また足元の悪い中、観光戦略会議に御参集いただきましてありがとうございます。諮問をしてみなさんに御議論いただいて計画なり戦略なり練り上げていく機会は多々あるんですが、顔触れを見ますと、すごい方々にお集まりいただいているなど、素晴らしい戦略が共に練り上げられると期待が大きく膨らんできました。

犬山の観光が盛り上がってきていると感じていただいていると思いますが、その一方で色々な課題もございますので、これから未来に向かって、犬山の観光を基幹産業として、特定の地域だけでなく、犬山全体で足腰を強く、骨太な展開をしていくということが重要だと思っております。また、生活との調和ということも含めて、しっかり対応しながら持続可能な展開を図っていくことが求められています。

これまでのことも踏まえながら、これからの局面にどのように先手を打って展開していくのか、この観光戦略をはずみにして進めていきたいと思っておりますので、忌憚のない御意見をいただきながら、共に戦略を練り上げていけたらと思っておりますので、皆様方の御指導を賜りますことをお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。よろしくお願いたします。

事務局

続きまして、委員委嘱をさせていただきます。委嘱状につきましては、委員の皆様お一人お一人に市長から直接お渡しさせていただくのが本来でございますが、会議の時間の関係から既にお手元に配布させていただいております。ご確認の上、お受け取りください。

続いて、出席委員の確認をさせていただきます。委員総数は 11 名で、武田委員から欠席の連絡をいただいております、本日は欠席 1 名、10 名の出席をいただいております。委員の過半数の出席がありますので、本日の会議が成立していることをご報告させていただきます。

次に、委員のみなさまのご紹介をさせていただきます。

(資料を基に所属と名前の紹介)

続いて、事務局の紹介をさせていただきます。

(所属、名前の紹介)

続きまして会長の選任をお願いしたいと思います。どなたかご推薦などございませんか。

柴田委員

これまでも犬山のまちづくりに様々な形でご助言、ご指導いただいた西村先生にお願いしたいと思います。

(異議なしの声あり)

事務局

既に賛成というお言葉もいただきましたので、西村委員ということでよろしいですか。拍手をお願いいたします。

各委員

(拍手)

事務局

西村先生、会長席へお移りください。ここでご挨拶をいただければと思います。

西村会長

西村です。よろしく申し上げます。私が犬山と付き合うようになったのは、1996 年に全国町並みゼミが犬山でありまして、そのころは都市計画道路をどうするか、という問題がありました。私はその時、はっきりと都市計画道路はやるべきでないと強く申し上げた記憶があります。その後、当時の石田市長が決断され、それから本町通りが大きく変わって行って、当時はこんなに人が来て、観光公害みたいなことが起きるなんて想像もできなかったわけですが、こういう一つの例がこんなに町を変えるんだと実感を持って見せていただきました。

その後、市のまちづくりアドバイザーとして、ほぼ毎年来させていただいて、地元の方に、まちをこういうふうに変えたいのではないかとアドバイスをすることを、10 年以上続けさせていただいています。特に驚いたのは栗栖です。渡し船がなくなって今では完全に行き止まりの集落ですが、名古屋に出るのもそんなに遠くないところに、昔からの集落構造が残っていて、今でも元気なんですよね。他の地域も非常に多様性に富んでいて、犬山は魅力が高いまちだと思います。2 年間できちんとした戦略を作っていくということで、皆様方

にも活発な御議論をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。ここで先ほどお話をさせていただきました傍聴人の撮影・録音についての取り扱いを決めていただきたいと思います。西村会長お願いします。

西村会長 先ほどから議題になっておりますけれども、会議中の傍聴人の撮影に関しては、進行の支障を来さないよう自席からの撮影のみとしたらどうかと思います。また、録音につきましても個人としてのメモの利用に限り了承するという、切り取って公開するのはやめていただくということではいかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

西村会長 そういう形で傍聴人の方、お願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。続きまして、会長の職務代理者の指名に移ります。職務代理者は会長が指名することとなっています。西村会長、いかがでしょうか。

西村会長 職務代理者に関しまして、石田委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

西村会長 ありがとうございます。それではそのようなかたちでお願いします。ひと言お願いします。

石田委員 フランスの詩人でヴァレリーが、ボートというのは後ろを向いて前に進むんだ、ということを言っている。この会議は犬山の将来を議論するんですが、西村先生も私も、後ろのこと、犬山のまちづくりの流れはよく知っているので、それを山田市政につなげていきたいと個人的に強く思っております。

事務局 ありがとうございます。それでは、次に諮問に入りたいと思います。山田市長から戦略会議に諮問させていただきます。西村会長、よろしくお願ひいたします。

(山田市長から西村会長へ諮問)

事務局 ありがとうございます。資料の確認をさせていただきます。本日、机に置かせていただいたものがございますし、事前に送付させていただいたものもございます。

 (資料確認)

 会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

 それでは、進行の方を西村会長、よろしく申し上げます。

西村会長 本会議は会議録を作成し、議長が指名した委員2名が署名するという事になっておりますので、私の方から署名者を指名させていただきたいと思えます。名簿の順といたしたいと思えますが、名簿の2番目は石田委員、3番目は佐分委員、お二人に指名させていただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

 それでは議題に入りたいと思えます。議題1「観光戦略策定の背景および現状について」、説明をお願いします。

事務局 (資料に沿って説明)

西村会長 ありがとうございます。何か質問があればお願いします。

石田委員 この資料はどこで誰が作ったのですか。

事務局 市の方で作りました。もちろん資料の収集と見栄えなどについては受託会社の力を借りたところもありますが、基本的に市の方で作りました。

岩瀬委員 先ほどはPRをしていただきまして、ありがとうございます。

 資料27ページに「2021年 ホテルインディゴ犬山有楽苑オープン」がありまして、私どもの公表の仕方が分かりにくかったかもしれませんが、2021年度の下期ということで、正式な時期は2022年の春ということでございます。

事務局 訂正させていただきます。

西村会長 資料は大局的な資料が多いですけれども、例えば犬山の中にどういう観光資源があるのかといった、もう少し市内の具体的な状況、それが今どうなっているのかといったものが必要ではないかと思えます。

事務局 現在そういった資料を収集中でございまして、次の会議には収集して検討の資料にさせていただきますと思えます。現時点で集められるもので今日のご報告させていただきました。

西村会長 今日是最初の会議なので、委員の皆様方のご意見を伺う時間が後ほどあり、そこでご発言の機会がございますので、先に進めたいと思います。

それでは、議題2の「第1回犬山市観光まちづくり会議について」、説明をお願いしたいと思います。

事務局 (資料に沿って説明)

西村会長 これはどうやって人を集めたのでしょうか。また、いつまでやるのか、本年度で終わるのか、来年度まで続くのか、基礎的な情報がみなさん知りたいのではないのでしょうか。

事務局 こちらについては広報犬山などで実施しますよと周知をして公募というかたちで募りました。その他、事務局の方から是非出ていただきたいという方に、直接お声掛けするかたちでより多くの人に知っていただきながら、よろしかったらご参加くださいというかたちでお集まりいただきました。

会議について、今年度は全部で5回程度実施していきたいと思っております。そして、来年度も同じくらいの回数を議論できたらと思っております。観光戦略策定が来年度末となりますので、そこで一区切りとなりますが、こういった現場の生の声、観光に最も近い方たちがその時その時の課題について直接意見を交わして、更に具体的な取り組みにつなげるということは必要じゃないかと思っておりますので、会議の進行進捗によりませんが、令和3年度以降も回数などは未定ですが、できれば開催をしていきたいと考えております。今のところ観光戦略策定と並走してやっていきますので、ひとまずは来年度末までが明確なスケジュールとなっております。よろしくお願い致します。

西村会長 集まった方は観光に従事されている方でしょうか。

事務局 観光に従事されている商業・商売をやられている方ですとか、地元の住民の方、あるいはまちづくり団体の方が多かったように思います。

服部委員 属性の表示がないので、できればどこの居住者か、所在地ですとか、年齢階層とか職業分類とか属性などを示しながら分析していただけるといいかなと思いますので次回以降よろしくお願い致します。

事務局 参加者の年齢などが把握できていないので、2回目以降、こういったご指摘の点について留意して参ります。ありがとうございました。

西村会長 たくさん意見がでると思いますけど、意見を出した人は、意見を聞いてもら

ったからには何か動くだらうと期待が高まるわけです。その時に何も情報が戻らなかつたりすると、逆に、言ったのに何も動かないということで、最初はいいけれど後に反動が起きてくることがあるので、是非いろんな形でフィードバックをしてあげて。今日出てきた資料もそういうメンバーにも情報を共有して、色々な形で動きがある、現実的な施策になっていっているんだと実感をもってもらわないと後で揺り戻しがきますので、サポートをしてあげてほしいと思います。

事務局 承知しました。ありがとうございます。

西村会長 次の議題が意見交換ということで、最初の会議なので皆様方にそれぞれの思いのたけについて、発言をしていただきたいと思っております。いずれにしても全員発言していただくので、名簿順によろしいですか。よろしく願いいたします。時間にご配慮いただきながらご発言いただきますとありがたいです。

石田委員 資料4の現状を読んだのですが、一言で言うと、経済成長の方向性なんです。山田市長はSDGsに関心をもっているという話を承っております。犬山市の行政内部でSDGsの勉強をするということ聞いていますけれども、この資料に書いてある方向性とSDGsは全く矛盾します。ですから、市長の意向を市役所の職員の皆さんもよく整合性をとっていかないと、ダブルスタンダードになる。その心配が1つです。

それから、西村先生が会長になっていただいたことがとても嬉しいです。というのは、先ほどのご挨拶にもありましたが、城下町が再生できたのは都市計画道路という一つの黒船がきたのですよ。それに対して反応したのです。今度は、名鉄犬山ホテルがなくなるという黒船が来ます。それに対して反応する。一方、名鉄犬山ホテルがあった所は、昔、遊園地があったし、何をやっても当たります。それは、木曽川の力です。不変の力です。城下町から木曽川のあたりにスポットを当ててほしいです。

この資料が一体何が言いたいかわかりません。ですから、これからの議論で私も主張していきますが、木曽川というのが最高の犬山の宝だと思っておりますので、そこに焦点を当てて、成長よりも持続、SDGsは世界的な流れですから、成長よりも持続という哲学、そういう立場で私は議論していきたいと思っております。

佐分委員 私は、犬山にある唯一の大学、名古屋経済大学の学長をしております。こちらにきて8年、学長になって今3年目になります。そこで、掲げたテーマが「地元密着型の大学」ということで特に教育の研究の場を、狭く大学のキャンパスにするのではなくて、犬山を含むこの地域をフィールドとして研究、教育をするということを立て上げました。地域連携センターというものをつくり、犬山

学研究センターもつくりました。

そして、学生に対する授業では、1年次に体験型学習で、犬山に出てさまざまなテーマをもって自ら問題解決を考えよということを行いまして、その時に私が2つテーマを提案したのですが、今は20ぐらいテーマを展開していますが、2つのうちの1つが犬山の観光戦略を考えろというテーマでありました。

私は高度成長を追求してきた世代ですので、とりあえずはこういうことを言いました。犬山には観光資源が豊富である、しかし、残念ながらもうひとつ地味なものが多い。これは実は名鉄さんと関係するのですが、明治村という素晴らしいものがあるけれども、それが博物館であるという限界もあるのだろうけれど、もうちょっと観光客が集まってもいいのではないかと。リトルワールドは、非常に発想は面白いし、資源的にもたくさんあるのですが、それが十分に日本全体にも、世界にも認知されていないのではないかとというような問題提起をしまして、いかに観光客を増やすか、というテーマを掲げました。学生たちはいろいろ考えて、言うことは単純だけれど、今の犬山の城下町に若者が溢れるようになった要因の一つはうちの学生が大いに貢献していると、影ながら思っております。

それは何かというと、何年か前から串文化というのをやっていますよね。串であれば歩きながら食べられるということですが、ある日私は学生に、町なかを歩いていて、串を2つ以上買って食べることをさせて、後で意見を聞いたら、圧倒的に、昭和横丁の入り口にある団子だったのですが、私は食べなかったのですが、食べてみたら美味しくないと。学生に聞くと、美味いかどうかの問題ではなくて、可愛らしくて、インスタ映えだと言うんです。それから1年ぐらい経って行ってみたら、目を疑うぐらいの行列がそこにできているのですね。私は学生に授業で謝ったのですが、やはり若い人に魅力あるものはあなた達が考えなきゃいけないのだ、我々の世代では無理なのだ。

もう1つ面白いことは、うちの学生が思いついたわけではないですが、大変に評判だったのがハート型の絵馬です。最初はそんな下品なものと思ったのですが、大変評判がよく、そして、彼らは全てSNSで発信してくれているために、かなり若い人が溢れるようになっていきます。その要因のひとつにうちの学生が貢献しているのではないかと考えていまして、今は盛んに彼らをおだてて、例えば明治村についてどうしたら人が入るかと問うと、圧倒的に皆が言うことは入場料が高いということです。安くすれば入ると。ただそういうことではない。経営側から言うと入場料総額で考えなきゃいけないのだから、今後マーケティングの知識を入れて、計算するなどをするようにと課題を出したわけです。リトルワールドには外国人割引制度がある。明治村には学生割引制度があるが、あっちにはない。意外と学生は細かいところに気が付くなど貢献できます。若い人が魅力ある観光施策には貢献できるかと思えます。

最近では、ゴミ問題など、観光公害に関わる問題についても考えようという意見が出ていまして、そのために高山や金沢のまち並みなどへ行って、私とし

ては若い学生の能力をうまく発揮して犬山の観光について考える際に貢献できると良いと思っております。

犬山学研究センターもありますので、犬山学とは何か、ということで、古墳やお城についても含めて人間環境ということもテーマにして考えていきたいと思っております。また、犬山にある大学としては、教職員、学生ともに調査・分析に貢献できればいいです。

今回、観光戦略を考える上でのテーマは大きく2つあると受け止めています。1つは、犬山の観光経済をいかに域内循環させていくのか。もう1つは犬山の観光をいかに持続的に発展させていくのかという持続可能性という観点です。

1つ目の域内循環に関しては、宿泊、名物、多様化という3つのキーワードがあるかと思っております。とにかく泊まってくれないという、宿泊の問題があります。この問題に対しては、今後ホテルインディゴが開業すれば大きな核になるかと思いますが、それだけで十分なのか、宿泊機能をいかに拡大させていくのが非常に重要なことだと思います。その中で犬山という地をみると、城下町から見て川端、木曾川の川端のホテル街をいかに再生して活性化していくかが大きなテーマになるかと思えます。

もう1つは、西村会長も仰いましたが、犬山市には栗栖や今井といった非常に自然豊かな里山があるので、これらの地域にもキャンピングを含めた宿泊という可能性もあるかと思えます。そういう観点から、調査・研究をしていただきたい点として、川端や里山を見たときに外の事業者がこれらの地域にどのような魅力を感じ、進出意欲があるのか、もしくは進出意欲がないとすればどこに課題があるのか。そういったサウンディング分析を是非していただけるとありがたいです。

それから名物に関しては、子どものころから犬山の名物は、げんこつ、犬山焼だと思っておるわけですが、長じてからはお酒も旨いねと思っておりますが、外から見ると名物がないという状況になっています。なぜ外から見て明示的な名物がないという状況になったのか、その原因分析を是非していただきたいと思えます。

それから、多様化と申し上げたことについて、城下町の観光がクローズアップされており、犬山の他の資源がなかなかクローズアップされていないという状況の中、犬山に住んでいると里山も含めて歴史的・文化的な魅力的な資源が多くあるということは分かっているので、これについて、何が活用されていて何が活用されていないのか、活用されていないものの原因は何なのかということも是非分析していただいて、先ほども西村先生が仰っていましたが、犬山市の各地にどのような資源があってどのように使われていて、また使われていないのかという、即地的な分析が必要かと思えます。そのときに単に物的・空間的な資源だけではなく、人的な資源、つまり今後ローカルツーリズムに入って

いこうとすれば、各地の様々な体験観光の担い手が重要となってくるので、犬山市には体験観光の担い手がどれだけいて、もしくはどれだけ不足しているのか、不足している場合はどのような育成をしていかなければならないのかといった課題も炙り出していければいいと思います。

もう1つ大きな括りとして持続可能性と申し上げたのは、城下町の住民としても最近の犬山の観光の活性化を肌で感じているところですが、観光公害が起り始めているという話の中でいかに持続的に観光を続けていくのかということを考える必要があるかと思います。今は若い方もたくさん来られていて、非常に賑やかでいいなと思っており、浴衣を着て串を食べながらインスタグラムの写真を撮るといった風景が見られています。この観光行動が悪いとは思っていませんが、その中で犬山の本当の歴史や文化、自然の本物の価値をどれだけ訴求できているのかという点に関しては心もとないところがあります。犬山の歴史、文化、自然の本物の価値とは一体何であり、それを本当に訴求できているのかという点についてはしっかりと分析していかなければいけないと思います。訴求ができていないのであれば、それを補強する施策展開も検討すればいいかと思います。

それに加えて、観光公害については、交通混雑も含めて色々な問題があり、住んでいる人間としては言いたいことはたくさんありますが、それに関しては細かいことは申し上げませんが、最近、城下町に住んでいて思うこととして、城下町に比較的若い方が住み始めていることがあります。一部の空き家を取り壊された後、30～40代の子育て世代が入ってくるという傾向が町なかにあります。従前、犬山の町なかというと、祭りを担わなければならないため、なかなか外から人が入ってこなかったのですが、そのような傾向がみられます。しかし今後、観光公害があまりにも激しくなってくると、城下町に住むと車を出すのも大変といったことになり、せっかくの定住傾向が上手くいなくなってしまう懸念があります。定住促進という意味も含めて、城下町の中での観光公害に対処していき、単に観光を規制するのではなく、ある種のルールづくり、そして市民の側でも許容する心を広げる活動が必要だと思いますので、観光公害の現状と市民の意識をしっかりと押さえておく必要があるかと思います。

梅川委員

大学に来る前は、公益財団法人日本交通公社という旅行・観光に関する専門のシンクタンクに37、8年おりました。今に至ります。全国の観光地活性化のお手伝いをしてきましたが、これまでなかなかご縁がなく、犬山に来るのは今回初めてで、昨日は市内をご案内いただきました。実は、お邪魔する前は、国宝があって、テーマパークがあって、所謂、点で成り立っている旧来型の観光地なのかなと思ってまいりましたが、多くのお客さんがおり、他の観光地からすると羨ましがられるようなところであり、しかも点ではなく面が面白い、つまり、城下町というところは可能性のあるところだなと思えてきました。商人の町割りが残っているのは非常に価値があると感じましたし、若い女性がグルー

プで歩いている姿を見ると、多分彼女たちにとって、この町に来ると自分が主役になれる町なのかな、ということを感じました。ただし、課題として若い女性客がお金を落とさないということがありますが、彼女らの観光行動・観光形態は否定しなくてもいいし、否定すべきものでもないと思います。彼ら・彼女たちは色々なエリアの情報発信をしてくれる側面もあり、それが上手くいくと良い面もあり、インバウンドの誘致などにもひよっとするとつながっているのかもしれない。

また、よく見ると外国人の方も結構いらっしゃいました。顔だけ見ていると分からないのですが、言葉を聞いていると日本語ではないので、おそらく海外からのお客さんだろうと見ておりました。

今、本町通りが賑わっておりますけれども、期待したいこととしては1本入ったところ、滲み出し効果と言いますか、東京・原宿の竹下通り周辺では裏原宿と呼ばれる、素敵なおしゃれなカフェやレストランがあり、大人がゆっくり過ごすことのできる空間ができてきているので、犬山市もそのような可能性があるところなのではと感じました。

今、まちを楽しみながら泊まる、暮らしを楽しみながら泊まる、分散型ホテルも非常に流行っていて、イタリアではアルベルゴ・ディフーズと呼ばれる、集落全体がホテルになっているという手法もあり、城下町周辺にゲストハウスや民泊のようなものが出てくると、夜も楽しい、また夜に消費をしてくれるようなこともあると思うので、そういった可能性も今後検討していく必要があるのかなと思います。

それから、以前はアーケードがあったところと聞きましたが、クリエイターの方々が住み始めているということで、そこにアーティストや芸術・アートをする方々が集まって創造的な活動をするクリエイティブシティのような可能性もあるのかなと思いました。また、名古屋からこれだけ近いところで自然もある多様な空間もあるので、MICE（マイス）のインセンティブにも可能性があると感じました。

今来ているお客さんの観光行動を徐々に変えていくのかという点を新しい犬山市の観光戦略としてつなげていく、またインバウンドという一番伸びしろのあるところも非常に可能性があると感じたところでございます。

岩瀬委員

名古屋鉄道でグループ全体の営業戦略を担当しております。したがってグループの販売促進や宣伝、ITなどの制度を担っております。

先ほどから委員の方々のご意見を拝聴しておりまして、このような観光戦略会議を作っていただいて、それは良いことだと真っ先に思ったのですが、私どもの展開する明治村にばかり、リトルワールドにばかり、日本モンキーパークにばかり、近年入場が伸び悩んでいるところがあります。犬山市の施設としては名鉄犬山ホテルもございまして、全体では年間200万人ぐらいの人が私どものグループを利用していただいているのですが、伸び悩んでいるのは、名鉄グ

ループの商売下手なところ、宣伝下手なところが露出しているのかなと感じております。

ただ、私どもグループといたしましては最大のレジャー施設の集積エリアでございまして、勿論犬山線が通っているということがありますが、先ほども言いました日本モンキーパーク、それからリトルワールド、明治村、ゴルフ場としての犬山カンツリー、それから犬山ホテルとございまして、グループの中でも一番レジャー系の施設が集積しているところでございますので、私どものグループといたしましても、ここを何とか再興したいという思いがあり、その戦略について一生懸命知恵を絞っているところでございます。インバウンドのおかげで鉄道本体側が潤ってきまして、次の戦略というところに手を出せるようになってきました。

先ほどからホテルの話もありましたけれど、今日の8月30日の宿泊をもって、犬山ホテルが54年続いた営業を一旦終えまして、10月1日から取り壊しをいたしまして、全部取り壊しまして、先ほども申し上げました2022年の春に新しいホテルインディゴ犬山有楽苑をオープンすることに決めました。

もう一つ、それだけではなく、犬山市長さんから犬山駅西口の開発について非常に強く強く要望もございましたので、そこにも宿泊施設を建てることになりました。犬山の地に、この2つの施設に多額の投資をして、勝負することに決めました。外資と組んで、インターコンチネンタルホテルズグループと組んで、ホテルインディゴをオープンさせるわけなのですが、経営的には本当にやっつけられるのかすごく不安なところがありまして、もちろん、ただ犬山を国際都市に向けていく、それからインバウンド誘致するにはなくてはならない施設になると思っておりますが、会社としては大きなチャレンジをすることになります。グループとしてもここを何とか成功させたいという思いから、こういった外資と組んで取り組んでまいります。是非この会議の中で出た意見を我々も参考にしながら、今までの商売下手ではなく、委員の方にもよくやったと思われるような取り組みをしたいと思っておりますので、是非ご意見のほどよろしくお願いたします。

日比野委員

私は15年以上前に犬山まちづくり株式会社という会社を当時の石田市長にお願いをして、1,500万円出していただき、3,000万円の資本金でスタートしました。その当時は犬も猫も歩いていないくらい何も歩いていない町だったので頭を抱えまして、どうしたものかなど。実は、犬山まちづくり株式会社はそのシャッター通りのシャッターを上げる会社なんですね。私が1件1件回って店先を貸してくださいと。顔見知りでない人が行っても誰も貸しません。私はたまたま本町通りで生まれ育ち、31歳まで住んでいましたので町の人を皆知っている訳です。中には絶対に貸さないという人もおりましたけれど、意外とスムーズに進みまして、今日現在で17店舗お借りした店舗を改装して募集をするというやり方を続けてきました。

ある時、私はディズニーの本を読みまして、ウォルトディズニーは装置産業だと。どかんと装置をつくるんだと。でもそれを放っておいたらリピーターは来ないよと。そこでイベントをうって、今日来たお客さんをもう一度明日来させるにはどうしたらいいのだろうと、そんな下りがありまして、ディズニーランドの繁栄はそうかと。リピーターを呼ぶためには毎日日替わりでイベントを組むのか、ということに気が付きまして、犬山には大きな装置産業があるじゃないかと。犬山城ですね。これを活かさない手はないと。

そこで、イベントを考えたのがまずはビール祭り。それから、ワインまつり、焼酎まつり、地酒まつり、どぶろくまつり、と酒ばかりです。最初に犬山署の署長に道路使用許可の問題があつてお願いに行ったら、「酒のイベントに警察は協力できませんよ」と言われたのですが、いや私の考えは、「酒を飲むなら車で来てはいけませんよ、名鉄電車で来てください」というメッセージです。このメッセージを発信するためのものです、と。するとそうかそうかと協力していただいたんですね。今夜も明日からのビール祭りの前夜祭ですけど、多分大勢のお客さんがいらっしゃいますが、電車で来てください、車はだめですよと、すると名鉄さんが潤います。きっと協力していただけるだろうと読んでいるわけですね。

そんなことで15年前はそれこそ誰も歩いていないような町に今日この頃なぜお客さんが来るのかと、次の疑問ですね。なぜ若い人が来るのか。多分癒されているんですね。癒しは何かというとまず道を車の心配なく堂々と歩けるといふ癒しですね。ところが実は交通止めはしておりません。しておりませんけれど、人が多いので車の方が遠慮して走っていますから人の方が堂々と歩いています。

もう一つは、電柱と電線がないこの爽快感ですね。我々はクモの巣のような電線と電柱の中で長い間暮らしてきたDNAが、鬱陶しいものがあつたんです。それが解き放たれて、スカッとした町を歩く、この爽快感が多分城下町に皆さんが来ていただいている理由なのではないかなと思っております。

小川委員

観光協会でございますのでそれなりにお話をさせていただきたいと思えます。今も出ておりましたけれども、犬山の中心部は、石田市長の時に電線が地中化されまして、道路の美装化がされました。実は私は、石田委員が市長の時に観光協会の副会長になりまして、その後会長ということで現在に至っているわけでございますけれども、ちょうど今お話しした美装化の時期に、それまでの犬山のテーマは山と川と古城の街犬山ということで売っていたのですが、「本物を求めて犬山へ」というキャッチフレーズで名古屋鉄道さんと手を組みまして、今年3回のキャンペーンを行っておりますが、美装化が終わる頃に第1回のキャンペーンが行われ、その時は丁度日本では歴女ということでお城が非常にもてはやされていた時期でした。そこで一気に観光客が増え始め、私ども観光協会はいくまでも誘客が主業でございますので、色々と飛び回ってお

客さんを集め、四苦八苦いたしました。

そして、そのうちに今度は昇龍道ということで、名古屋に始まりまして、高山、金沢の方まで行くルートですが、そこに犬山が入っていなかったのですね。それで私ども観光協会として単独で、犬山市の中に台湾によく訪問する団体がございましたので、台湾にインバウンドを仕掛けようということで、10年ほど前にインバウンドに取り組み始めました。そしてある程度成功いたしまして、現在はタイとベトナムに入っております。ベトナムは、先ほどお話しにありました、名古屋経済大学の学生さんの中に100名程ベトナムから留学生が来ている関係で、私どもとタイアップをしていただいて、ベトナムからのインバウンド誘致にも取り組んでおります。

統計的にお話しいたしますと、現在、平成30年度のデータでございますが、外国人の宿泊者で1番多いのは、香港で1,346名、台湾が1,177名、中国が988名、韓国が700名というデータですけれども、実は、全て犬山の宿泊場所というのは名鉄犬山ホテルしかないのですね。あとのビジネスホテルは嫌われちゃって、泊まる場所がないという状態です。名鉄犬山ホテルが明日終わってしまうというのは非常に大打撃になるわけですけれども、近隣の名鉄小牧ホテルが改装オープンされまして、今既に海外のお客さんはこちらへご案内している現状であります。

そして、先ほどまちづくり会議の結果についてお話がございましたが、最初は観光客誘客のためにあちらこちら走り回っていたのですが、今ではまちづくり会議の結果にありますように、観光協会への電話はクレームの電話が非常に多くなっています。ゴミの問題やトイレの問題など色々あります。

トイレの問題に関しましては、私どもの市の中に特産品協会というものがありまして、そこにお土産屋さんなども入っておりますので、是非観光客にトイレを貸してあげてくださいと、お年寄りは立ち寄ればお土産を買っていきますからとお願いをいたしました。なかなか同調していただけないのが現状です。これは、先ほど日比野委員も仰っていらっしゃるけれども、店を開けてもらうときに、おそらくですが私どもが思っているのは、地元の人が行っているお店であればそのようなことはないと思うのですが、他の市町から来てお店をやっている人にも、観光に関してやはり親身になってもらわないといけないと感じております。私ども観光協会が何かを作ってやるというわけにはいきませんので、今は誘客だけに努めておりますが、先ほども申し上げましたように、この8月を持って名鉄犬山ホテルが閉業するということは大変なことであり、インディゴが来るということは、黒船が来ることと同じ話だということがございましたので、私どももそういうつもりで誘客をおこなっていきたくて思っています。この会議を通じまして私どももできる範囲内で色々なご意見を述べさせていただいて、実の濃いものになるよう協力させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

柴田委員

犬山市の人口も減少時代に突入し、先日とうとう 74,000 人を切ってしまいました。犬山がこれから持続していくためには、観光をまちづくりの要とすることは非常に大切なことであると考えております。

先ほどもお話がありましたけれど、本物を求めて犬山という言葉に象徴されると思いますが、犬山は文化財の宝庫です。観光というものは光り輝くものを見せるものだとは私は考えておりますので、宝である文化財の保護という一方、犬山城は勿論ですが、犬山祭や有楽苑、明治村など、有形無形の文化財を今以上に観光に活用することが一つ大切ではないかなと考えております。

それともう一つここに住んでいまして、観光に非常に期待する一方で、今まで色々とお話しましたが、観光公害と呼ぶのは嫌なのですが、生活上の支障がかなり出てきているのではないかということも肌で感じております。

いずれにいたしましても、一番大事なことは住んでいる人間が誇りと愛着を持てるまちにするということが、観光を持続させるためには必要だと思っております。

10 年後、もっと言えば 50 年後、100 年後の犬山づくりに向けて皆様と一緒に議論させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

久世委員

市会議員の久世です。議員でもありますが、城下町で 2 店舗を経営しております。ここに来る前に事務局に提案したのは、委員でなくてもいいので、この会場に女子大生を何人か入れてほしいということでした。今城下町を見ていて、最もお客さんとして目立つのは女子大生くらいの層でして、数としても圧倒的に多いと思います。

観光公害ということをよく言われるのですが、それは一部であり、時期としても一部の話でして、例えば、土日、ゴールデンウィーク、お盆、年末年始、お祭りの日、花火といった日に集中しています。平日と土日の差が非常に激しく、売り上げでいうと大体 5 倍～7 倍の差が出て、雨が降るともうおしまいです。今日のような日に観光公害は全く起こり得ず、人が全然歩いていません。このような現状を見ると、数を追っていると観光公害を生むということは明白なのですね。今までは落ちるお金ではなくて来る人に着目しており、議会でも指摘はしていましたが、それは行政のそういった姿勢からだと思っています。犬山城でいくらお金が落ちたかという発表は、おそらくこれまでしていないではないでしょうか。何十万人という数だけなのです。数に囚われているからそうってしまったと思います。

町並みをきれいにすれば人が来るというわけではなく、そういう町は注目は浴びますが、来たら何もなかったねと言って帰られてしまいます。

まちづくりのためには店が必要だと私は思っています。いかに店を増やすかというところで、現状多い店の種類は屋台の延長です。串巡りというものを行政としても推進してきてしまったので、そういう安い単価で食べ歩きができる、気軽にどうぞ、ということで人を集めてきました。地権者としてもそうい

う店を同じ敷地内にたくさん作った方がリスクヘッジできるというメリットがありました。何店舗が抜けても全部抜けるわけではないので、そこだけ入れ替えても良いわけですし、出店者としても、初期投資が低く出店ができるというメリットがあったということで、皆の利害が一致してこのような町になったという現状です。しかし、たとえ高いものでもいいからゆっくり食べたいという人もいますので、そういった方向けの店は、他を見ている限りでは成功しているなと思います。非常にバランスがとれていて、利益が出ます。

平日に来る人と土日に来る人では客層が明らかに違っていて、平日はゆっくりしたい、お金を落としたいという人が多いです。屋台のような店だと来訪者数が少ないので、売上げが上がらないから平日は閉めてしまおうと閉めます。一方、土日はものすごい人が来るため、ゆったりするような店だとあまり売上げが上がらないが、安定はする。そのため、人を雇用できます。平日は閉めて土日だけ営業している店では人は雇えません。土日だけ働きたいというのは学生だけですし、地元雇用が生まれなため、地域内経済循環を考えると、屋台ばかりの店では上手くいかず、観光公害も発生するということから、課題としては明白かと思います。以前からずっと思っておりまして、なかなかこのような会議が開かれず、議会でも会議を開いてほしいと繰り返し言っていたため、こうやって情報の共有ができることを本当にうれしく思っています。

犬山の観光の課題は本当に分かりやすく明白でして、いかに数でなく質に変化するか、その質をいかに作っていくのかという一点にあると思っております。

西村会長

補足の発言があればお願いします。

石田委員

岩瀬委員にお伺いしたいが、インディゴはなぜ犬山に来るかということ、何を考えているのか、これが戦略の肝となると思います。インディゴは犬山のためには何も考えず、自分のところの儲けのみを考えるとされます。極論ですが、インディゴは犬山のことを1%も考えないと予想します。

また、私はインバウンド、特に長期滞在型の旅行者に対する最大の魅力資源は明治村やリトルワールド、モンキーセンターだと思いますがいかがでしょうか。

岩瀬委員

ホテルについては名古屋鉄道が建てて、名古屋鉄道も一緒に取り組んでいくものですので、外資に全てやっていただくものではないことをご理解いただきたいと思います。新しい会社を作って、私どものスタッフも入る、という意味では、外国人の人と一緒にやっていくということになりますが、地域とともにやっていくことになります。ただし、外国からお客さんをお呼びするには、名鉄という名前では呼べないので、インディゴと手を組みました。インディゴブランドのホテルはまだ日本にありませんが、この秋に箱根・強羅ができて、

犬山は2軒目ということになります。

色々なホテルブランドからご提案をいただいた中で、ホテルインディゴを選んだ理由は、一番地元の文化・自然を生かした提案であり、画一的なものを目指すのではなく、その地にあったホテルを目指しましょうということを提案いただいたことにあります。インディゴというものはまだ形がございません。このまちをデザイナーが見て、イメージをしてから、私どもと一緒にデザインを作っていくことになっているために選んだわけですし、決してインディゴに丸投げということではないことをご理解いただきたいと思います。

外国人の長期滞在について私どもも狙いたいので、スパ施設、リラクゼーションの中で、ゆっくりした滞在の中でまちを楽しんでいただくメニューを考えていきたいと思っています。今はインバウンドを高山、金沢に持っていかれてしまっていますので、それをくい止められるような施設にしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

石田委員

今の解説をもう少しゆっくりと聞いて、皆で議論していかなければならないと思います。

数人の委員の方が仰っていらっしゃいましたが、なぜ人が犬山の城下町に来るかという、肌感覚で空間に何か惹きつけられるのでしょうか。行ってみるとガラパゴスのようなところであり、どんどん電子化・AI化される中で、忘れられた魅力が惹きつけるのではないかと考えています。そういうことも議論されると良いでしょう。本日の資料ではまず600万人の観光客という数字の記載から始まっているところが気に食わない。どこの施設が何人かなんて関係ないですよ。せっかく西村先生に会長になっていただいているので、西村会長の哲学で全体の方向性をグリップしてほしいと思います。

委員の方から木曾川の意見があり嬉しく思いました。鵜飼について、天気次第の不安定な点は、安定的な観光客確保という点ではマイナス要素ではありますが、考えてみると自然とともに生きるというキーワードとつながっています。風や雨といった自然現象の中で観光を考えることは大事なことだと思っています。

久世委員

岩瀬委員に質問になってしまうのですが、犬山温泉はこれからどうなっていくのでしょうか。犬山にとっては大きな観光資源だと思っております、これからは欠かせない資源だと思いますが、もし民間だけではできないとすれば行政の支援も考えていかなければならないと思いますが、どうなっていくのでしょうか。

岩瀬委員

守らなければいけないものと思っています。平成7年に出てきたわけですけど、本日のお客さんに入っていていただいて名鉄犬山ホテルは一旦閉めますけど、源泉は保全して守っていき、ホテルインディゴとしても目玉にできたらよいと

思っていますし、他のホテルさんに供給いたします。

西村会長 その他特になければ、次回の本会議開催時期が空いてしまうことから、犬山市観光戦略会議専門部会を設置するということですので、事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料に沿って説明)

西村会長 資料6のメンバーで専門部会を作って、資料7のようなスケジュールで進めることが事務局の提案であります、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

西村会長 ありがとうございます。それでは、本会議の委員からは、服部委員、梅川委員、名古屋鉄道から朧山様、商工会議所からは奥村事務局長、観光協会からは片山事務局長を指名させていただきます。部会長は服部委員にお願いしたいと思います。服部委員から何かありますか。

服部委員 本日出た意見を専門部会の方でしっかりと議論をして、次回の戦略会議にしっかりとした資料を出せるようにしていきたいと思います。石田委員からありました西村会長の哲学を反映させていただいて進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

西村会長 ありがとうございます。他にコメントがある方はいらっしゃいますか。
(市長から何かとの声あり)

では、山田市長、何か感想などはございますか。

山田市長 それぞれの立場で活発に御意見いただきましてありがとうございます。これまでの歩みや現状、今日の流れの中でお感じなことはあると思いますが、課題認識としては一致しているなと思います。このような計画は作ることが目的ではなく、具体的に展開してきちっと行動して、その先には結果があって、その検証があり改善や行動がついていくわけです。そういったPDCAを回していくことで持続ということができてくると思います。幅広く皆様から意見をいただいて、より良いものを共に作っていただけると考えておりますので、厳しい意見も出していただいて、御指導いただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

西村会長 ありがとうございます。それでは、議題としてはこれで終了いたしましたので進行を事務局にお返しします。

事務局

ありがとうございました。次第の最後のその他でございますが、次回会議開催日程を調整させていただきたいため、日程調整表を記入して本日回収できればと思います。

(各委員の日程調査表を確認)

それでは、次回は2020年3月25日(水)午後2時～午後4時を予定させていただきます。

これを持ちまして第1回犬山市観光戦略会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。